

令和5年度 第1回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

1 日 時

令和5年6月21日（水） 14時から16時まで

2 場 所

駿河消防署 4階会議室

3 出席者

（委員）古井委員、岩崎委員、海野委員、小嶋委員、高山委員、田村委員、望月委員
（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 地域支え合い推進係

5 傍聴者

0人

6 意見交換及び情報交換（司会及び進行は古井部会長により実施。）

（1）各地域包括支援センターから令和5年度の事業計画について報告及び意見交換
別紙 各地域包括支援センター事業計画書参照

<八幡山地域包括支援センター>

包括：

地域全体の見守りや援助体制、対応力が非常に向上しており、以前から多世代への対応が行われている。市営有明団地で、生活支援のための“有明応援団”、居場所の“なごみ”により団地内での生活に支障がある方への支援ができています。介護保険では対応しにくいサービス、例えば短時間のゴミ出しや安否確認、電球交換のみ等に対応しています。介護認定を受けていても、地域のサービスを使っており、地域とのつながりが維持できている。森下地区においては“みまもりたい”があり、全世帯の中で社会的弱者になりうる人の見守りや支援体制が構築されている。高齢者の見守りをしていた方が、小学校の登下校時の見守り活動もしている。富士見地区においては、多世代交流のための居場所づくりの必要性が広まり、新たな居場所づくりの方向性が検討されている。

今年度の目標として、相談援助は今まで通りだが、事業計画書3、4、6、7の点で地域支援やケアマネジャー、関係機関との連携、役割分担や評価が行えるよう地域ケア会議を開催し、地域の問題点を挙げていく。今ある地域資源である居場所やボランティア等による支援体制の継続と、新たな地域資源の創出支援を行う。

また、圏域内の居場所や相談場所を兼ねたフレイル予防の講座の実施を考えている。取り組み内容としては、有明団地内の有償ボランティア、居場所の支援を行うことで、地域の支援力向上を目

指す。市政出前講座等を用いて、色々な制度を地域住民に理解してもらうよう取り組んでいる。地域での活動（S型デイサービスや出張講座等）で、介護予防の意識付けが行えるよう、理学療法士や薬剤師、栄養士等によるフレイル予防講座を実施する予定である。

富士見地区では徘徊認知症高齢者の搜索模擬訓練の実施や、高齢者の理解を深める機会として、多世代の交流機会を設ける。地域で不足している資源の洗い出しを地域住民と共に行うため、アンケートを生活支援コーディネーターと協働して実施していこうと考えている。アンケートの結果で、地域資源の発掘を行おうと考えている。

地域との交流について、令和4年度の成果として多世代交流を行うきっかけづくりのため、幼稚園児や小学生等が参加するボランティア活動に、地域に住む高齢者や施設入所者が参加できるように、行事の調整を行った。これは、5月の土曜日に地域のジュニアボランティアが高松中学校で畑を借りて玉ねぎの栽培をしており、地域の小規模多機能型居宅介護やグループホームの入所者に来ていただき、子供たちと一緒に玉ねぎの収穫を行ったものである。その結果、地域の方からは「施設入所者は寝たきりや重い認知症で何もできない人ばかりだと思っていたが、こんなに色々できる人がいることがわかった」と感想をいただき、「もっと色々な施設と関わりを持ちたい、機会があれば施設見学等をしたい」と、とても良い反応があった。この活動を継続することで、包括だけでなく施設が地域の相談窓口の1つを担えるようになると良い。

また、包括の活動ではないかもしれないが、地域の方から施設には常に人がいるため、施設が“子どもかけこみ110番”になってくれれば、安心できる地域づくりにつながるとの提案があり、多世代の関わりとしては良いと感じた。

望月委員：

多世代交流は素晴らしい活動だと思った。その中で、“有明応援団”は共助の取り組みとして素晴らしいと思う。応援団メンバーの年齢構成を教えてください。

包括：

半分くらいは後期高齢者になっている。団地は高齢化率が70%、後期高齢者は60%くらいだが、自分たちでお手伝いできることはお手伝いするとしている。後期高齢者でも動ける方はお手伝いする側に回るという意識が高いため、年齢層としては80歳くらいまでの方々が出来ることをお手伝いしている。階段の上り下りに問題がなければ、ゴミ出しはするよと言ってくれる方もいる。

望月委員：

支援を受ける側になりうる年齢の方々が活躍されているのは素晴らしいと思う。今後、若い方々も取り込むきっかけが作れると良いと思った。

小嶋委員：

アンケートを実施していく予定とのことだが、どのような形でどのくらいの規模を考えているのか。

包括：

アンケートの規模は全戸に実施したいと考えている。8年程前に、森下地区で全戸アンケートを実施したため、それを参考にする。内容は、生活で困っていること、この地域のどこが便利なのか、不自由なところはどこなのか等、良いところと悪いところがわかるようにアンケートを取りたい（医療機関に行きやすい、交通の便はどうか等）。

<大谷久能地域包括支援センター>

包括：

大谷久能地区は人口約9,400人、高齢者人口約2,700人の非常に小さな圏域である。その小ささ故に地域と顔の見える関係を作りやすい雰囲気があり、在宅介護支援センター時代からの民生委員や自治会、地区社協等と親密な連携を行ってきた。

現在偶数月には、定期的に民児協と地域ケア会議を開催し、地域課題に対してはそこに圏域の各種団体や多職種専門職を加え、フットワークの良い地域活動に繋げている。昨年末の民生委員の一斉改選や、長年地域をけん引されてきた民生委員役員の退任、地域包括支援センター職員の異動等により、地域の顔ぶれや雰囲気が大きく変わった。今まで築き上げてきた地域福祉力が維持できるかどうかは、今年度の活動で大きく変わる可能性がある。

大谷久能地区では、“高齢者のくらしみまもりたい”を基軸としたフレイル・認知症予防、専門職同士が連携した地域支援を重点に置き取り組んでいる。今年度で“みまもりたい”は11周年目となる。例年に引き続き、民生委員や組長になったら、当たり前“みまもりたい”があり、当たり前のように活動を引き継いでいくという、この当たり前を固定化させ消さないよう、今後も取り組んでいく。

次に多職種連携について、地域住民もフレイルや認知症予防について関心が高いため、S型デイサービスやシニアクラブ、でん伝体操の自主グループを中心に薬剤師や理学療法士、作業療法士、栄養士、歯科衛生士等の専門職を派遣し、地域の介護予防を継続して支援する。また、昨年度末から圏域内のケアマネジャーが集まる会を設け、ケアマネジャー支援に加え、ケアマネジャー自身も“みまもりたい”の一員としてどう地域を支えていくかについて話し合いを重ねている。4月に、支援センターみらいと静岡市の精神福祉のワーキンググループを招き、認知症に加え、精神障害についてのグループワークを行い、知識を高めると共にそれぞれの役割を確認した。今月には主任ケアマネジャーと生活支援コーディネーターが集まり、地域資源について共有し、今後どう地域に情報を提供していくのか話し合っている。自治会、民児協、地区社協、生活支援コーディネーターとの連携を重視し、圏域内事業所の多職種を巻き込みながら、地域課題を共有し、行政、専門職、地域のネットワークを通じ、地域の支えあい活動を推進していく。加えて、昨年度まで年間1回程度実施してきた自立支援プラン型地域ケア個別会議について、アドバイザーからの意見をいただいた後、ケースの評価を行うことで、事例提供者やアドバイザーに結果を還元できるよう、今年度は同じケースで年間2回の実施を計画している。

古井部会長：

事業計画書では、認知症高齢者等個別ケース地域ケア会議の開催を考えているとのことだが、具体的に対象者、実施回数、参加メンバーについて教えてほしい。

包括：

地域で課題となっている方が何名かおり、その方の状況に合わせて民生委員や高齢介護課、地域の施設管理者、町内会長に参加してもらおうと考えている。開催頻度はまだ具体的ではないが、自立支援プラン型地域ケア個別会議は年2回、圏域地域ケア会議は隔月に年6回を予定している。

海野委員：

大谷久能地区に、自身が後見人として関わっている方で、家族まるごと問題を抱えているケースがある。高齢の父は脳梗塞で倒れ病院に入院、高齢の母は認知症を患い、同居の子は精神疾患を抱

えている。そのような状況のケースは、行政へ働きかけを行っていく必要があると思うが、包括としてはどう考えているか。

包括：

長年包括が支援してきたケースで、やっと後見人が選任されたところである。行政も関わっているが、どうしても行政と包括とのスピード感の差が埋まらない部分はある。何度も何度も行政に連絡し、情報を挙げていくしかないと考えている。

古井部会長：

障害分野も関わるような重層的な支援が必要なケースだと思う。地域ケア会議の開催等も包括で検討していると思うが、そういう場の後見人も入ってもらうことは可能か。

包括：

障害分野と後見人も交えて話をしていかななくてはならないが、ここまで段取りを組むのが本当に大変だった。合間に関係機関とやり取りをしてきたが、これからやっと関係者を集めて話し合いを行う段階に来たと思っている。

古井部会長：

高齢介護課との連携はスムーズかと思うが、おそらく障害分野等へは高齢介護課から話をしてもらおうと良いと思う。また、関係者を集めて話し合いを行うにあたりどこがイニシアチブを取っているのか等の課題は、各包括共通の問題として検討していけると良いと思う。成年後見人の立場としても、今後のチーム支援に期待をしている。チームを支える会議の設定やチーム支援にも力を入れていただけると有難いと考えている。

<長田地域包括支援センター>

包括：

今年度から当法人が5か所目の地域包括支援センターの委託を受けた影響で、人員体制が大幅に変わり、当包括も7人中4人が変更となり、地域を知らない職員が半数以上となった。昨年度までの計画を継続しつつ、これまで手が行き届いていない事業にも注力しながら事業計画を立てている。

長田圏域の特徴として、長田東、長田南、川原地区の3学区あるが、地区社協と支えあいの活動が盛んである。3学区ともボランティア隊を結成しており、地域のボランティアに励んでいる。丸子圏域と協働で、昨年度から社協が行っている地域支えあい会議の拡大ブロックの会議として、今年度も引き続き長田・丸子圏域で何かしていきたいと思いブロック会議を行った。大変、地域活動が盛んな地域である。

世帯全体で課題を抱えているケースや8050問題を抱える世帯が多くなり、支援に時間を要するケースが多くなってきている。事業名①総合相談支援事業の中の圏域のネットワーク拡充のための地域ケア会議の実施について、地域の既存団体（地区社協や民児協）との連携はこれまでも十分に取られているが、医療機関や障害分野の事業所、金融機関や地元商店街とは、包括で抱えている課題を共有する機会があまりなかったため、新たに小学校区ごとに地域ケア会議を定期的で開催したいと考えている。今年度は初回になるため、3学区それぞれ1回ずつの開催を計画している。現在それぞれの既存団体の会長等に打診をしている。

次に、事業名④介護予防ケアマネジメント事業、⑥生活支援体制整備事業、⑦認知症総合支援事業の3つに関わる“good atプロジェクト”について説明する。これは地域住民の得意なことを活

かして地域の既存団体に繋ぎ、貴重な資源として得意なことを活かしながら地域貢献を行い、同時に自身の介護予防や認知症予防を図りながら生活支援体制整備事業にも繋げることを意識している事業になっている。具体的には自らの得意なことをPRするための名刺を作るワークショップを開催し、参加者同士で名刺交換をしながら交流を図り、その中から地域団体や市民活動グループに繋いで生きがい活動が続けられるよう支援をする事業となっている。ワークショップ等、既存団体とのつなぎ役のサポーターの養成を目指しており、最終的には自主活動として“good at プロジェクト”を進めていくことを目標にしている。

古井部会長：

事業計画書の中に、多機関、多職種がシームレス（つなぎ目のない）に有機的に連携していけるよう、と記載があるが、具体的にどういうことをイメージして、包括としてどのような役割を担おうとしているのか教えてほしい。

包括：

最近、重層的支援が必要なケースが多く、どこが旗振り役をするのかが大きな課題になっているが、比較的包括に期待される部分が大いと感じている。今年度は駿河区が重層的支援体制整備事業のモデル地区となっているが、そこと上手に連携しながら支援を実施し、多問題を抱える世帯についてシームレスな支援ができるよう入っていきたいと考えている。

岩崎委員：

事業名⑦認知症総合支援事業について、地域にいる軽度認知症の方に対し、なかなかスクリーニングをすることが難しい。“good at プロジェクト”ではどのような年齢の方を対象にしているのか、実施回数等を教えてほしい。

包括：

長田・丸子圏域で生涯学習センターや体育館、保健福祉センター等公的機関を含めた7機関の会議を数年前から行っており、その中で長田包括から“good at プロジェクト”を提案したところ、生涯学習センターや用宗老人福祉センターからやってほしいと話があった。そうした機会も活用し、高齢の方を対象に実施していく予定だが、特に枠を設けているわけではない。具体的には名刺を作ってそこに名前と自分の得意なこと（例えばコーラスや小物づくり等）を併記して、参加者同士で名刺交換をすることで交流を深め、地域での活動に繋げていけると良い。

岩崎委員：

病院や施設に入ると、ADL低下や社会性が乏しくなることがあるため、病院や施設の中でもできると良いと思った。

<丸子地域包括支援センター>

包括：

長田包括と同様、職員的大幅な異動があり、1名を除き新しい職員になった。そのため、基本的には昨年度の目標を引き続き行っていく。

丸子包括は長田北と長田西学区を対象とし、どちらも地域活動が盛んな地域である。特に長田西学区は有償ボランティアやNPOまちづくり協議会で支えあいの組織があるなど、市内でも有名な地域で、活発に活動をしている。介護保険では手が届かない草取りやゴミ出し等のボランティアがあり、地域の方々はとても助かっている。長田北学区はS型デイサービスが活発に行われており、

コロナ禍では一時実施できない時期もあったが、今年5類に分類されてからは再び活発となり、包括へも体操の依頼や講師の依頼が多く来ている。

丸子包括では総合相談支援事業が一番大事だと考えており、多様化した問題が多くなっている中、対応方法について職員内で行う朝のミーティング等を活用して事例検討を行ったり、当法人内5つの包括と合同で勉強会を行う等、個々のスキルアップを図っている。また認知症の方々の対応として、介護予防ケアマネジメント事業ではS型デイサービスが活発なため、そこで健康体操や権利擁護の啓蒙等の活動を保健師や社会福祉士が行っている。他にも地域のデイサービスの職員である理学療法士の協力を得て体操教室を実施する等、地域と施設との交流を図っている。昨年度チームオレンジを行い、今年度も地域でやりたいという声があるため、地域の方々の協力を得ながら開催することで認知症の方々への理解を深めていきたいと考えている。

望月委員：

圏域の状況の中に、コロナによる外出自粛による機能低下の相談が増えているとあるが、5類になった今もコロナ関係の影響はあるのか。

包括：

コロナのピークの頃に比べてコロナ関係の相談は減っているが、コロナの影響で外に出なくなったことから、S型デイサービスの参加者減少が如実に見られている。コロナ禍で運動しなくなったためS型デイサービスに行くことができなくなったとの声もあるため、今も若干影響があると考えている。

望月委員：

若い方々はコロナ禍でもオンライン等で繋がりを保てたが、高齢者だと難しい部分もあるため、地道な声掛けや地域とのつながりを保つことが大事だと思う。

古井部会長：

ケアマネジャーとの勉強会や研修会が活発に行われており、計画にも介護支援専門員と民生委員の顔が見える関係づくりを行っていくとあるが、具体的に考えている取り組みはあるのか。

包括：

勉強会を兼ねてケアマネジャーや民生委員に参加してもらい、互いに顔が見える関係を作っていく。高齢者の相談において、民生委員からの相談をケアマネジャーに繋ぐケースが多いため、そうした関係をより築きやすいよう支援をしていきたい。

古井部会長：

現時点で何回くらい開催を予定しているのか。

包括：

未定だが、最低でも1～2回は実施したい。

<大里高松地域包括支援センター>

包括：

毎年民生委員の方々に圏域の相談状況について包括が冊子でまとめ、配付している。本日はその中の一部を抜粋し、当日資料として配付した。圏域の状況は資料のとおりで、高齢化率が低い所と高い所で幅がある地区である。南部地区では地域の支えあい“み・て・こ”の活動があり、昨年度認知症サポーターステップアップ研修を行い、チームオレンジとして発足している。この活動が継

続し、色々と連携できれば良いと考えている。また昨年度、事例検討会や個別ケース会議を実施する中で、ケアマネジャーからの相談が毎日 10 件程度あり、中でも 8050 問題や意思決定支援、介護力不足の課題が多かった。昨年度は動けないという相談が入り、訪問すると亡くなっていたり救急搬送したりしたケースが、月 1 回程度あった。ADL が低下すると病院に行けないから受診を中断してしまい、最終的に大変になっているケースがあり、受診中断者を抽出できるよう、医療機関と連携できると良いと感じている。動けないと相談が来る方の中には、高齢者実態調査の対象外になっているケースも多い。家族がいるのに 3 か月位前から動けず隣の部屋で寝たままになっているケースや、喧嘩をしたまま口もきかずそのままになっているケース等、故意ではないネグレクトに繋がっているケースがあった。故意ではないネグレクトの養護者に対し、どう道筋を示していくのか、どういうことに困っているのかを聞いていく等、働きかける方法を工夫することで介護方法の改善に繋がっていくこともある。関係機関を集め地域ケア会議をやっているが、行き詰まることもあるため、重層的支援体制整備事業に事例を提供したり、先月は子ども若者相談センターのヤングケアラーの担当者に事例を提供したり、静岡市不良な生活環境を解消するための支援ということで住宅政策課職員からもセンター連絡会で話を聞いたりしながら、包括だけでは解決できない問題に対し、行政機関に働きかけながら対応していきたい。

認知症に関しては“チームオレンジみ・て・こ”が、認知症地域支援推進員を中心に、生活支援コーディネーターと来月研修会を開催する。関係機関に集ってもらい圏域ケア会議も開催する予定である。本日も南部図書館の職員に認知症サポーター養成講座を実施し、図書館もアルツハイマー一月間等に連携したいと話していたため、地域の方と一緒に何か連携ができれば良いと考えている。認知症サポーター養成講座は今年度夏に児童クラブで開催を予定しているため、若い世代にも啓発ができれば良いと考えている。

また、年に 6 回ウエルシア薬局で相談会を開催している。集客は良くないが、買い物ついでに包括に相談できて良かったとの声もあるため、身近に気軽に相談できる場として、継続していきたいと考えている。総合相談を受けている中で、認知症の本人が支援を拒否しているため、その家族が問題を抱え込んでいて、包括に相談するまで 2～3 年悩んでいたという方がいた。包括に相談するハードルを下げられるよう、身近な相談窓口として今後も行っていきたいと考えている。

小嶋委員：

医療機関との連携について、歯科においては外来で入れ歯を作る際等、継続的に関わることが多いが、治療途中で来院が途絶える方がいる。訪問診療で関わっている場合は医療機関から声をかけることができるが、外来通院の方で受診中断をしている場合、その方とどう連絡を取るのかが課題になっている。医療機関から包括に相談するケースは月何件程あるのか。

包括：

歯科医から包括への相談は多くある。歯科医院へは 30 年以上通院している人も多いため、歯科医はその人の認知面等の変化がわかると聞いている。また開業医の看護師からも相談を受けることがある。昨年度は 5,406 件中、医療機関からが 508 件で、相談の 10%程度が医療機関からの相談だった。少しでも気になる点があれば、包括への相談に繋いでもらいたい。

古井部会長：

断らない相談支援を実践していく中で、重層的支援会議に事例を提供するとあるが、具体的にいつ頃開催されるのか。

包括：

未定だが、ヤングケアラーに関係があると考え子ども若者相談センターに相談した事例があるが、子ども若者相談センターの方も介入していく根拠がないと行き詰っている。そのため、同じ事例について重層的支援体制整備事業でも検討することで、全体的に支援を広げていきたいと考えている。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

包括：

西豊田、東豊田、東源台の3つの学区を担当している。西豊田学区は東静岡駅やイトーヨーカドー、総合病院があり、利便性がよい。S型デイサービスが充実しており、第1週から4週まで各会場で活動が行われている活発な地区である。今年9月から、“西豊みまもり隊”が始まる。例えばゴミ出し等、ヘルパーができない部分の支援を100円から500円程で行う活動で、社協と協力しながら包括も支援をしていく。東豊田学区は坂がある地区で、“にこにこ東豊田号”が昨年度から始まった。3ルートあり、ボランティアの運転により買い物や通院の移動支援をしている。東源台学区も坂は多いが、住民の方々が協力的な地区である。清水区と駿河区の境にある弥生町は巴川の近くのため、水害が起りやすく気を付けなければならないエリアである。

重点目標は3つあり、1つ目はフレイル予防を挙げている。コロナ禍で活動が減ったことから、体力が低下している方が多くなっていることと、コロナが5類になり地域の活動が活発になっていることから、フレイル予防を行っていこうと思っている。2つ目は認知症の周知啓発である。昨年度は認知症の理解不足から虐待につながってしまったケースがあり、周知する必要があると考えている。3つ目は包括の周知である。昨年度行った自治会や民生委員へのアンケートから、新人の民生委員や地域の方々にもっと包括を周知してほしいとの要望があった。基本に立ち返って包括の周知を行う。具体的には国保連から道具を借りて、S型デイサービスにて健康測定を7月に実施する予定である。現在作成中の包括のチラシの裏面にフレイル予防を全面的に掲載し、全戸配布をしたい。認知症については認知症サポーター養成講座をS型デイサービスで実施したり、包括職員も10年来講座を受けていないため、再受講する予定になっている。また、5月に行った出張かけこまちの開催支援で好評を得たため、搜索模擬訓練等に繋げていきたいと考えている。包括の周知では、清水銀行東静岡店でなんでも相談会を年金支給日に開催した。包括職員から声をかけると好意的に話をしてくれる人が多かった。事前にチラシ配布をしていたため、チラシを持って相談に来た方も1人いた。今年度は基本に立ち返って活動していきたいと考えている。

岩崎委員：

健康機器を用いた相談会とあるが、どのような機器を使うのか。

包括：

骨密度測定器、肌年齢測定器、体組成分析装置を借りた。S型デイサービスでグループ分けをして、保健師や看護師が回り、話をしながら楽しくできれば良いと考えている。

古井部会長：

取り組み内容に、自宅でずっとミーティング「人生会議を開いてみたら・続編」とある。令和4年度には入門編を実施したとあるが、どのような内容でどのような人が集まったのか。また今年はどういう人を対象とするのか。

包括：

自治会の民生委員、福祉事業所の方が来て、10グループ、80名ぐらいの規模で、カードを使いながら皆で楽しくグループワークを行った。アンケートを取った中で、ぜひ次の話を聞きたいとの声があったため、今年度は医師や看護師にも話をさせていただきグループワークができれば良いと考えている。予算がつかない中、どのようにして医師等と呼ぶのかを検討している。

<大里中島地域包括支援センター>

包括：

大里西学区と中島学区の2学区を担当している。北側は国道一号線、南側は海、西側は安倍川、東側は大里高松圏域と隣あっている。国道一号線に近い大里西学区は、中島学区に比べ若干高齢化率は低い、上昇率はハイペースである。中島学区は高齢化率が27%程度で横ばいになっている。大里西学区は街中に近い分、買い物や移動の利便性は高く、住民意識も中間的でバランスが取れている。しかし今回の民生委員の改選で、いくつかの地域で成り手が不足し苦勞したと聞いている。中島学区は昔からの農家が多く、血族や地縁が強い地域となっている。男女間の意識が強く保守的な面があるが、何かで団結すると熱意や勢いがあり、盛り上がる傾向がある。今までの包括の話でもあったが、多問題ケース、8050や精神疾患等障害関係の困難ケースが増えており、年度末から虐待ケースが多く出てきた。

今年度力を入れていくこととして、数年前から居宅介護支援事業所の方々に集ってもらい、ケアマネジャーが主体となって色々な催しを行う会を実施している。今年度も年間4～5回ほど開催する。初めは時間も取られ、難しい部分もあったが、最近では非常にケアマネジャーが積極的に参加している。勉強会や催しには、圏域内事業所の専門職（理学療法士や栄養士等）、民生委員、金融機関、開業医、往診医等が参加し、専門職種同士のチームネットワークが確立されてきている。そこには自立支援プラン型地域ケア個別会議でアドバイザーとして呼んだ先生方も含まれており、ネットワークが広がってきていると思う。昨年度、それらに参加した専門職たちが地域のこともっと知りたいと言ってくれており、今年度は専門職たちに地域に出てもらい、S型デイサービスや民児協、地域ケア会議に少数ずつ、包括と一緒に見学や講師を担っていただけるようにする。参加しただけの方たちからは、地域のことをあまり知らなかったため、知ることができて良かったとの声が聞かれたため、年間を通じてやっていきたい。認知症サポーター養成講座について、昨年度は高齢者を対象に実施したが、当事者や今後当事者になるだろうという人を対象にすると、内容や時間構成で課題があったため、今年度は対象を変えることを検討した。本当は40～50代をターゲットに実施したいがアプローチが難しいため、子どもたちをターゲットにし、今年度は児童館へ接触し、子どもの親が付いて来ることを期待し認知症サポーター養成講座の開催を調整している。

また、重層的支援体制整備事業に挙げたい事例があるため調整していきたい。

望月委員：

取り組み内容にある「ひと声かけてネット」について教えてください。

包括：

ケアマネジャーが自分のケースの利用者について民生委員に見守りの手を借りたいと協力を頼んでいる。民生委員は協力するが、頼まれてそれきりになってしまうという声もあったため、その仲介に包括が入り、ケアマネジャーと民生委員が対面する場の設定や、少なくとも半年くらいは双方で連絡を取り合うよう調整するシステムである。

望月委員：

とても良い連携になっていると思う。お願いして終わりではなく、その後の反応も確認するのは良いことだと思う。

また、若年層へのアプローチということでは、子どもの言うことは聞かないが孫の言うことは聞くという高齢者も多いと思うため、とても良い取り組みだと思う。

古井部会長：

共通的基盤整備の所に、中島学区で発生している困難（ゴミ問題）ケースに対し、コーディネーターや地域住民らと共に協働すると記載があるが、具体的にどのようなことか教えてください。

包括：

長く問題になっていた一戸建てで、昨年度3月に高齢の両親が亡くなり、現在50代の息子が一人で生活している。以前から包括は関わっていて、3階建ての大きな家だが、もう家として機能しておらず、ライフラインは止まり、壁が崩れていて、足の踏み場もないようなゴミ屋敷になっている。息子にはおそらく重度の発達障害があると思われる、生活保護に繋がったものの、息子は家に執着しており、水道も出ず転居が必要な家から離れられない。植木が隣の土地に出ており、周囲の方々から苦情もあるため、地域福祉推進センターや善意のボランティア、民生委員等が年度末に対処したが、1回では処理しきれなかったため今年度対応しなければならない。行政にも生活支援課をはじめ他課にも相談したが、こうしたケースを援助できる手立てがないと言われ、途方に暮れている。

<全体を通して委員からの感想>

田村委員：

認知症の方が増えていく時代の中で、認知症に対する理解が必要だと個人的にも感じている。そうした中これからの時代を担っていく20代・30代・40代の人を集めることは難しいと感じている。土日開催等の制約が出てきてしまう部分があると思うため、子どもを巻き込んで、各家庭で子どもから親へ話をするすることで、親世代にも理解や興味を得られるようにしていくことは良い取り組みだと思った。

高山委員：

私たちの会（清水介護家族の会）は、家族を介護している方たちの会で、介護経験者やボランティアが中心となっている。地域包括支援センターの皆様には各会員がお世話になっている。高齢の介護者も多く、若い介護者は働いている方も多いため、なかなか相談に来られる方が少ない。包括の名前は知っているが、どのようなことをしているのかわからない方もまだまだたくさんいるのではないと思われる。包括の力添えは介護者を支える強い力になるため、これからもよろしくお願したい。

小嶋委員：

医療機関だからこそ気づくことはたくさんあると思う。もっと医療機関が包括と連携して情報共有できたら良いと思う。また、地域ケア会議に歯科医師や歯科衛生士が参加できる仕組みが確立できれば良いと感じた。

海野委員：

司法書士が包括と関わるのは成年後見がらみになっている。静岡市社会福祉協議会で成年後見受任者調整会議が月1回開催されている。包括からの相談に対し受任者調整会議への相談を促した際

に、包括から月1回しかやらない、悠長なことは言ってもらえない、と言われたことがある。社協や行政に包括の困り感を訴え、開催頻度を増やしてもらえるよう働きかけができるとうい。

岩崎委員：

先日も高校や中学で出前講座を依頼された。体験できる施設に出向きながら、命の大切さや出産の喜びについて伝えたり、施設の情報を学校に伝えている。双方の関係性を築きながら医療、介護、地域とどう関わっていくかをキーワードに実施している。高校生と中学生だけの出前講座ではなく、包括の方々の所に出向いたりもできるかと感じた。そうした方向性も検討していきたいと思っている。

望月委員：

全ての包括で障害との連携やグリーゼーンの問題、8050問題等が出てきている中、普段障害分野で働いている中で、高齢分野との連携は大事だと常に感じている。その中でしっかりと繋がりを作りながら一緒に考えていきたいと思っている。

古井部会長：

それぞれの包括から報告を聞き、それぞれの地域性に応じて特徴のある活動をしていることがわかった。一方で共通的な業務目標があり、今回他の包括の報告も参考にしながら、計画の中に具体的に盛り込んでいただけたら良いと思う。また、現場で抱えている問題を、それぞれの圏域で対応するのではなく、共通するものは駿河区全体の課題として整理し、挙げて行ける場になればと思う。それが市全体の課題であれば運営協議会で協議していくことも可能だと思う。次回もそれぞれの包括での問題や課題についてご意見をいただきたい。

(2) 情報交換 【テーマ】災害時の対応について

古井部会長：

テーマは災害時の対応とした。災害時は、地域包括支援センターの皆さんもご苦労されている。昨年9月の台風被害について、昨年の部会でも情報交換をしたと聞いている。先日6月にも大雨警報、土砂災害警戒情報が発令され、中には避難指示が出た地域もあった。来年度からは、地域包括支援センターにおいても業務継続計画（BCP）の策定が義務付けられる。その参考にすることも兼ねて、直近の風水害に関する相談や対応について、また災害時・緊急時における法人の協力体制について情報交換をしたい。

<八幡山地域包括支援センター>

担当圏域では6月の大雨に関する被害や相談等はなかった。ハザードマップ上、土砂災害警戒地域があり、雨があがり安全が確保できてから、警戒地域周辺を見て回ったが、被害や危険性は見受けられなかった。八幡山付近は、道が狭く自転車一台がやっと通れる地域で、災害時は救助困難なエリアだが、今回は特に問題はなかった。

当法人の清水の施設の1つでは、水害のためエレベーターが動いておらず、データ等もかなり破損していることから、法人としてはサーバーを2か所に設置して、データ等はそちらで管理する体制を取っている。紙媒体は浸水したら終わりなので、別にサーバーを設けておくことで、利用者の情報等を管理している。

<大谷久能地域包括支援センター>

6月の大雨について近隣住民からの被害報告や相談はなかった。特に久能地区は土砂災害の可能性が高い地区のため周辺を見回った。小さい川には土砂が出ていて、地域住民が土砂の撤去の要請を県に出したようだが、人的被害はなかった。大谷久能地区には指定避難所が4カ所(大谷小学校、静岡大学、ふじのくに地球環境ミュージアム、久能小学校)があるが、久能小学校は土砂災害の危険性が高いエリアにあるため、近隣住民からそこに逃げるのはかえって怖いという声も聞かれている。大谷小学校が一番リスクが低い避難場所だと思うが、久能地区の方が避難するには遠い場所にあるため、避難が大変なのではないかと考えている。

当法人は、久能の里という大きな特別養護老人ホームを抱えているが、久能の里自体も山を背負った施設のため、避難所としてはどうかと思う。水害について特に法人からは聞いていない。

<長田地域包括支援センター>

6月の大雨に関する被害はなく、地域から心配の声等もなかった。今年の台風では桃園町で車の水没被害があったと聞いている。土砂災害については小坂地域が山を背負っているため、ハザードマップ上では警戒地域ではあるが、特に被害の報告は受けていない。用宗や石部周辺は海に面している地域のため、津波被害の心配がある。先日、社協から長田南小学校4年生に対する福祉教育の授業の依頼があり対応した。その際先生に津波被害について話を聞いたが、4年生はこれから災害に関して勉強をしていく予定で、訓練では屋上に避難しているとのことだった。南海トラフ地震の想定では、長田南小学校は海から数mくらいしか離れていないため、本当に屋上に逃げて大丈夫なのかと思った。用宗の高齢者に津波のことをどう考えているか聞くと、「私は逃げられないから諦めている」と言う声が多く聞かれる。本当にそれで良いのかと常々感じながら、特に長田南地域はこれから災害について地域の方々と協議をしながら災害対策や高齢者の避難について話を進めていく必要があると考えている。

<丸子地域包括支援センター>

昨年度の台風15号では丸子川が溢れたようだが、今回の大雨ではとても高い水位になったものの、被害や相談は特になかった。先日民児協に参加した際、市民から避難所はどこにあるのかと問い合わせがあったと報告があった。以前は避難所が設置された時は、避難所はここだと看板があったが今回は設置されておらず、市民からわかりにくいとの話があったようだ。包括として、実際どういった対応ができるかについて検討中であり、何かあれば当法人とも対応を検討していく予定である。

<大里高松地域包括支援センター>

6月の大雨に関しては特に地域からの相談や被害は聞いていない。今年の台風では登呂遺跡周辺で、床上浸水や床下浸水をした家があった。下島や高松地域は海が近く、津波の心配がある。先日民生委員から、地域の高齢者が「津波が来たら私は仕方ないからいいよ」と言っていたが、どうしたら良いかと相談があった。包括が助けに行くとは言えず、難しいと思った。本当に災害があった際、包括が助けに行くことは厳しい。介護保険サービスの事業所が最後まで助けるとも言えない部分があると感じた。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

6月の大雨による被害はなかった。ケアマネジャーから、担当ケースが不在だが避難所はどこかとの問い合わせが1件あったが、結果的に買い物に行っていただけで問題はなかった。去年の台風では、弥生町（巴川、長尾川、吉田川が合流する地域）で浸水被害が多くあった。包括で担当していた方もアパートに住んでいたが、昨年床上浸水をしてしまったため、市内に住んでいる娘の支援で早めに避難をして大丈夫だったと話を聞いている。県立大学の江原先生が西豊田学区の防災に力を入れており、要配慮者の防災訓練を年に1回行っている。包括や小鹿苑等も参加し、体育館に要配慮者（知的障害者、車いす利用者等）が入れるか、トイレはどうするか等を皆で検証した。先日の勉強会で地域総務課の方に説明してもらい、避難所に行ける人は限られた人で、実際には自分の家で生活をしていくようになるという話を聞き、包括として何ができるかを考えなければいけないと思っている。

<大里中島地域包括支援センター>

6月の大雨による被害はなく、相談もなかった。去年の台風では中島、西島エリアが床上浸水をした（もともと潮位が上がると川が溢れる）。特に中島の150号線から河口にかけての地域が一番ひどく、中島の浄化センターは思うように処理ができずに溢れた。今回、雨が強くなってきた時に心配なエリア周辺を回った。8050問題のケースに声をかけたものの、「避難する気はない、まだ大丈夫」と話しており、こうした家庭はどうしたら良いのかと考えている。

<委員からの意見>

特になし。

<全体を通したまとめ>

古井部会長：

今日は各地域包括支援センターから今年度の取り組みについて報告をしてもらい、委員と意見交換を行った。こうした意見交換を通して、各地域包括支援センターの活動がより良いものになっていくことを期待している。